

豊岡農業スクールで3年間実習後、さらに1年間、市内の花農家にて実習を重ね、令和4年8月から、花農家として個人経営をされています。

豊岡市河谷にビニールハウス4棟、季節に合わせて多様な品種を栽培して出荷されています。

「夏は猛暑でハウス内は高温のうえ多湿、病気になる枯れる苗も出てきます。花作りは奥が深く、まだまだ日々勉強です。花の気持ちに寄り添いながら、毎日苗の顔を見て、水が欲しいか？肥料がほしいか？と試行錯誤しています。」と話されていました。

苗の出荷先は、まず加西市の集配センターに行き、そこから全国の市場へと配送され、花壇の花として日本のどこかで咲いています。

皆さんの心を豊かにし、癒してくれる、そんな花を育てている川越さんを応援します。

(推進委員 松岡 正人)



川越さんが提供しているマリーゴールド
(河谷地区の花壇)



ハウス内のローズマリー



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは

農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

道端に葉巾のせまい濃緑の群生を見つけました。この場所は彼岸花が咲いていたところでした。

今年のはじめ頃は10月上旬という記録的に遅い開花となりました。残暑が長引いたことによるものでしょう。

3年続きの酷暑で当地の水稲は高温障害(乳白粒・基部未熟粒等)を受けました。今年はイネカメムシの異常発生が確認されており、従来の斑点米カメムシ被害に追い打ちをかけ、等級低下を招きました。来年は程良い夏であることを願います。

稲の収穫前にはスーパの棚から米が消え高騰したとの報道がありました。昨年の高温障害により精米歩止りの低下、インバウンドによる消費拡大による米不足がその要因です。

これまで米価が安かったことが恒常化され、玄米1万(30kg)が高いという認識が生まれていますが、高いというより30年前の値段に戻りつつあると考えるべきです。

再生産可能な米価であってほしいと切に願います。

(編集委員長 西沢 泰裕)



農委だより第59号は私たちが担当しました。

後列左から 橋本委員、井谷委員、松岡委員、嶋委員

前列左から 霜澤委員、早水委員、西沢委員、高尾委員、和田委員



環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。